



東金市 願成就寺



九十九里浜

総務課より

事務職員研修の充実について

総務課では、事務職員への研修会をとおして資質の向上を図るとともに、給与等の事務処理に必要な情報を提供しています。

「小・中学校初期層及び5年目・10年目経験者事務職員合同研修会」では、令和3年度から令和5年度に採用された事務職員及び小・中学校経験5年目、10年目の事務職員を対象に、合同で年5回開催します。経験5年目、10年目の事務職員には、初期層事務職員研修での説明や支援を行うことにより、経験者としての意識の醸成を図ります。

「小・中学校事務職員副主査研修会」は、副主査を対象に、次代の学校事務の共同実施のリーダー育成等を目的に、年1回、開催します。今後も、事務職員が「チーム学校」の一員として頼られる存在となるよう、研修の充実を図ってまいります。

指導室より

学校人権教育の案内



◇学校人権教育について

①学校人権教育研究協議会地区別協議会を実施しました。

公立幼稚園・小学校・中学校の管理職を対象とした、令和5年度学校人権教育研究協議会地区別協議会を、6月14日(水)に睦沢ゆうあい館にて行いました。千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課人権教育班による講話では、千葉県の学校人権教育の概要、様々な人権課題などをお伝えしました。また、情報文化総合研究所の佐藤佳弘氏からは、情報化社会で起こり得る人権侵害の内容とその対応について、東上総教育事務所の小幡朋子 SSW からは、「ヤングケアラー」や「児童虐待」についてそれぞれお話をいただきました。参加された管理職の皆様は、ぜひ校内で情報共有をお願いします。

②自身を見つめ直してみよう。

教職員が児童生徒に人権教育を推進する上で、教職員自身が、常に人権感覚を磨いていくことが必要です。そのためには、研修のみならず、日常の取組に対する振り返りが大切です。様々な場面で教職員自身が言動や行動に気を付けることは、自らの人権意識を高めることにつながります。千葉県教育委員会 HP には、参考資料として、チェックリスト形式の「あなたは どう思いますか?」が掲載してあります。ダウンロードできますので、校内研修などで活用してみてもいいでしょうか。人権課題の状況や、捉え方は、学校や地域ごとに異なる場合もあり、チェックリストに該当するからといって、全てが問題になるわけではありません。しかし、これまで自分では当たり前だった考え方や捉え方が、見方を変えれば人権侵害にもなり得るという意識をもつことが大切です。

人権という視点で考えてみよう!

確認項目	
1	重いものを持つのは男子に、細かい作業は女子にお願いしている。
2	忘れ物をした子どもの名前や番号を黒板に書くことがある。
3	「休み時間は、外に出て遊びなさい」と強く指導している。
4	あいさつは、子どもから先にするのが当たり前だと思う。
5	宿題を忘れたら、やり終えるまで休み時間にやらせるようにしている。
6	「こんな問題ができなければ、〇年生にもどきなさい」と言うことがある。

千葉県教育委員会 HP「あなたは どう思いますか?」

(令和5年度版)より抜粋

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和5年4月18日(火)、小学校第6学年、中学校第3学年を対象に令和5年度の「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は、例年の国語、算数・数学に加え、中学校第3学年で英語の調査が行われました。英語の「話すこと」調査は、1人1台端末を使用しての調査となりました。本県の調査結果は以下のとおりです。

【東上総教育事務所管内の課題】

東上総教育事務所管内の調査結果は、小・中学校ともに3教科とも全国、県の平均を下回る結果となりました。記述式設問の正答率が低く、無答率が高いことは、経年の課題となっています。どの教科においても「まとめ」と「振り返り」は、自分の言葉で書くことを指導し、記述力の向上につなげていきましょう。

それぞれの調査教科の主な課題と改善策は以下のとおりです。

公立学校の平均正答率(%) ※令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から

小学校	全国	千葉県	自校
国語	67.2	67	
算数	62.5	62	
中学校	全国	千葉県	自校
国語	69.8	69	
数学	51	51	
英語	45.6	46	

国語科の主な課題と改善策

- 「書くこと」の領域の平均正答率が低い。
→「書くこと」の目的を明確にして、相手意識をもち、考えの根拠を引き出す指導に取り組む。
- 「読むこと」の領域の正答率が県の正答率と比較して差が大きい。
→「読むこと」の資質・能力を明確にして授業改善を図る。また、授業と関連付けた意図的な読書活動の推進を図る。



自校の結果を入れてみましょう↑

算数・数学科の主な課題と改善策

- 県と比較して、すべての領域で平均正答率が低い。
→習得した知識や技能は活用することで定着していくため、既習事項を活用する場面を意識して授業や単元を構成する。
- 特に記述式問題の正答率が低い。
→授業の中で、理由や根拠をもとに筋道を立てて説明する場面を設定する。

学習の「振り返り」について

「振り返り」は、学びの過程において学びの調整による気づきやさらに学びを追究したいこと等について書きます。例えば、「今日の授業は楽しかったです。」だけでなく、理由や根拠をもとに書くことで、記述力の向上にもつなげていきましょう。

外国語科の主な課題と改善策

- 情報を正確に聞き取る問題の正答率が低い。
→状況や場面を理解させ、「何を聞き取るのか」明確にさせる。
- 「書くこと」の領域の無解答率が県の平均よりも高い。
→読んだ内容の感想や賛否、自分の考えを話したり書いたりして表現する等、領域を統合した言語活動を行う。

児童生徒質問紙から

「先生は、よいところを認めてくれる」や「先生は、間違えたところや理解していないところを分かるまで教えてくれる」の設問に対して、肯定的な回答が県平均を上回っています。東上総教育事務所管内の教職員の皆様が、日頃から子どもたちを大切にしてくださっていることが伝わってくる結果となりました。



今年度から「解説資料」や「報告書」は冊子で配布されておりません。ぜひ、国立教育政策研究所のHPからダウンロードして分析に御活用ください。

こちらの二次元コードから↓



国立教育政策研究所
NIER National Institute for Educational Policy Research

